

かしま

ほつと HOT ほつと hot 通信

ホームページ <https://www.kashima.jp>

かしま病院

検索

スマートフォン をご利用の方は、
QRコードを読み取り、アクセスしてください。
PCサイトと同じ内容をご覧頂けます。

7月号 Vol.378

令和6年(2024年)7月1日発行

■編集/かしま病院広報企画室
■発行/社団医療法人養生会〒971-8143
福島県いわき市鹿島町下蔵持字中沢22-1
tel.0246-58-8010(代) fax.0246-58-8088ご意見・ご感想は...
上記住所へ郵便、またはE-mailでお送り下さい。
かしま病院広報企画室まで
kouhou@kashima.jp

1 卷頭特集

- 2 「認定看護師のご紹介」
- 3 能登半島地震支援プロジェクト
～被災地へ「までい座布団を届ける」～
- 4 コラム ひんがら目(205)
「ツバメ肺炎」
毎年、初夏に肺炎を起こしたAさん
呼吸器科 部長 山根 喜男
- 5 ようこそ家庭医療へ!
リハビリPOST
- 6 「第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会」
に参加しました
かしま荘通信

かしま福祉まつり

開催時期変更のお知らせ

毎年夏に開催していました
「かしま福祉まつり」ですが、
今年は**秋**に開催となります!

日時 10月19日(土)
10:00~15:00

会場 かしまデイサービス
センター前広場

秋の開催をお楽しみに!

卷頭特集

認定看護師のご紹介



- 認定看護師の役割**
- 1 個人、家族及び集団に対しても、高い臨床推論力と病態判断力に基づき、熟練した看護技術及び知識を用いて水準の高い看護を実践する。
実践
 - 2 看護実践を通して看護職に対し指導を行う。
相談
 - 3 看護職等に対しコンサルテーションを行う。
指導

出典: 日本看護協会「認定看護師」



5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める600時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格です（引用：日本看護協会）。

ある特定の看護分野において熟練した看護技術と豊富な知識を有し、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談の役割を果たす看護師をいいます。

認定看護師とは？

しま病院には、現在6名の日本看護協会認定・認定看護師が在籍しています。当院の認定看護師は、患者さん・ご家族の安心とQOL（生活の質）の向上を目指し、多職種と連携を図りながら活動しています。

認定看護師制度について

2019年の認定看護師制度の改正により、従来（a課程）とは異なる、「特定行為研修」を組み込んだり課程認定看護師の認定審査が2020年から始まりました。認定看護師の特定行為とは、特定の看護分野において熟練した看護技術や知識を用いて、医師や歯科医師の手順書に従って行う診療の補助行為を指します。医師の指示を待たずに行えることで、医師の負担軽減や迅速な処置の提供により患者さんの苦痛軽減をはかることができます。



認定看護師のご紹介



緩和ケア
認定看護師

鈴木 則子



緩和ケア
認定看護師

岡田 聰子

患者さんとその大切な方々の痛み・浮腫み・不安・苦悩など全人的なつらさの緩和に努め、みんなの笑顔が増えますよう心をこめて看護させていただきます。また、個人の価値観を尊重した医療・人生のラストステージに纏わる問題について一緒に考え、悔いの少ない意思決定に繋がるよう支援します。

*緩和ケアとは「患者やその家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケア」（日本緩和医療学会）



緩和ケア
認定看護師

青木 美枝子

摂食嚥下障害の原因は様々ですが、加齢も嚥下機能低下の要因の一つであり、高齢化と共に摂食嚥下障害が大きな問題となっています。食事は「楽しみ」であり、安全に美味しく食べられることは、患者さんのQOLを向上させることにも繋がります。摂食・嚥下障害は治療と並行して行わ

れる症状コントロール、心理面、社会面、スピリチュアルな苦痛の緩和を目指します。

例えば病気になったとき、病気だけでなく様々な苦痛と闘わなければいけないとしたらそれらの苦痛は、患者さんにとって生きるエネルギーを奪います。

患者さんを支える家族も第2の患者さんでありケアの対象です。本当に微力ですが、苦しみの中で一瞬でも笑顔になれる瞬間を作れるよう、その患者さんの笑顔を見たご家族にも笑顔の連鎖が生じるよう、患者さんもご家族も丸ごとケアできるよう院内を横断的に、多職種と連携をとりながら活動しています。

日本人の2人に1人は一生のうちに何らかのがんになるといわれています。今や「がん」は、すべての人にとって身近な病気です。その病状や経過は人によって様々であり、治療も多岐にわたります。抗悪性腫瘍薬（抗がん剤等）の開発も進み、患者様のライフスタイルに合わせた治療も可能になりました。

患者様が自分らしい日常生活を送ることができます。がん治療を受ける患者様とそのご家族に寄り添い支え続けられるよう、医師・薬剤師などの多職種と連携していくま

りました。

患者さんや家族、職員を感染から守るために、院内の感染対策チームや感染リンクナースとともに、日々奮闘しています。



がん化学療法看護
認定看護師

荒木 美穂

の方に対しても食形態や姿勢、一口量の調整などを支援し安全に食事摄取できるよう、また患者さん・ご家族の意思を尊重した看護の実践やNST（栄養サポートチーム）で多職種協働での活動をしています。

患者さんや家族、職員を感染から守るために、院内の感染対策チームや感染リンクナースとともに、日々奮闘しています。

COVID-19流行に伴い、感染対策強化の重要性が認知されました。このため、地域の医療・介護施設からも相談を受けることがあります。支援やアドバイスをさせていただく機会が増えてやりがいを感じて活動できています。

感染が起きてしまうとどうしても、負の感情になりがちですが、

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、創傷・人工肛門・失禁ケアを専門的に行う看護師です。



感染管理
認定看護師

木下 由美子

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、創傷・人工肛門・失禁ケアを専門的に行う看護師です。



皮膚・排泄ケア
認定看護師

湯田 依里

緩和ケアの対象はがんに限らず「生命を脅かす疾患」とされています。

緩和ケアは治療と並行して行われます。

認定看護師による勉強会

次回開催予定

感染管理認定看護師による勉強会

日時：令和6年8月21日（水）
18時～19時

場所：かしま病院コミュニティホール

内容：感染対策の基本

個人防護服を正しく着用しよう

講師：感染管理認定看護師
木下 由美子



お申込みは
コチラ▶

（今後の予定）

□10月16日（水）

緩和ケア認定看護師 鈴木 則子

□12月18日（水）

摂食・嚥下障害認定看護師 青木 美枝子

□R7年2月19日（水）

緩和ケア認定看護師 岡田 聰子



能登半島地震支援プロジェクト

～被災地へ「までの座布団を届ける」～



かしま病院・いわき地域リハビリ広域支援センターは、障がいのある方や高齢の方が住み慣れた地域で自分らしく活き活きとした生活を送れるよう、医療・介護施設、専門職団体、行政機関と連携し活動しています。6月には、能登半島地震の被災地支援としていわき市シルバーリハビリ体操指導士会主催の「までの座布団」プロジェクトに参画しました。

このプロジェクトでは、いわき市で布団店を経営する江尻さんが作製した508枚の『までの（丁寧）に仕上げられた座布団』を石川県の珠洲市、能登町、七尾市、志賀町の社会福祉協議会や役場を通じて4市町のシルリハ

体操指導士会に直接届け、現地の指導士の皆さんと交流しました。

この活動は、能登の生活に欠かせない座布団文化にマッチし、現地の指導士や各市町の職員の皆様から「ユニークな支援をありがとう」と感謝の言葉をいただきました。座布団は仮設住宅や集会所での体操で使用されます。

この取り組みは、特別養護老人ホームはなまる共和国様、福島県理学療法士会いわき支部様などの協力を得て実現しています。今後も住民団体との連携を強化し、地域交流を深め、活き活きとした生活を支える活動に励んでまいります。

かしま病院事務部

いわき地域リハビリ広域支援センター事務局

大平 佳央



News

能登半島地震の被災地に座布団贈る

小名浜・江尻寝具店 自らの震災の経験踏まえ

-2024.6.14 いわき民報記事より -



ツバメ肺炎

毎年、初夏に肺炎を起こしたAさん

バス運転手のAさんを初めて診察したのは2016年でした。当時64歳。2月上旬に汚れたバスの車内をマスクしないで掃除したところ、喘鳴がひどくなり死ぬ思いをしたそうです。翌日に近医を受診されましたがレントゲンには異常はありませんでした。しかし、その後も咳や痰が続いたため、1ヵ月後の3月中旬に当科に紹介になりました。

CTを撮ったところ、左右の肺にスリガラス陰影があり過敏性肺炎が疑われました。が、その頃には呼吸は楽になつていませんでしたので経過観察としました。

6月の健診で肺機能の低下を指摘され、7月上旬から夜間に咳と痰が出るようになります。しかし、8月に再検したCTではスリガラス陰影は消えていました。3ヶ月間くらいは喘息としてステロイドと気管支拡張剤の吸入を続けましたが、落ち着いて来たのか、その後はしばらく受診されませんでした。

翌2017年7月に喘鳴が始まり再受診されました。が、吸入を再開したところ落ち着きました。2018年6月下旬に発熱があり近医を受けましたところ、右肺上葉の肺炎を認め、3日間点滴を受けられました。その後、当科でCTを撮ったところスリガラス陰影を認めました。

2019年の5月下旬にもまた肺炎になりました。その後の当科近医で点滴を受けられました。その後の当科でのCTでは両側肺野にスリガラス影を認めました。どうも、毎年、5月から7月にかけてスリガラス陰影を伴った肺炎を起こされるよう

です。季節に関係している疾患が強く疑われました。Aさんに「思い当たることはありますか」と伺ったところ、「いつも、ツバメがやって来る頃に具合が悪くなる」ことが解りました。これによる過敏性肺炎の疑いがあります。

翌2020年のツバメの季節に注目しましたが、肺炎にはなりませんでした。

ところが、2021年4月に発熱と呼吸困難でかしま病院に救急入院されました。左肺野に粒状影を認め、アレルギー反応を表すIgEリストも高値であり、ツバメの過敏性肺炎が確認になりました。この時は重症でしたのでステロイドの内服を行い、軽快するのに40日間くらい掛かりました。

この苦い経験に憲りて、翌2022年5月に自宅にあつたツバメの巣を処分されたそうです。その年と翌2023年には肺炎は起きませんでした。

ひんがら目(205)



安心していたところ、2024年4月に栃木県に旅行したところツバメに遭遇しました。その年と翌2023年には肺炎は起きませんでした。

安心していたところ、2024年4月に栃木県に旅行したところツバメに遭遇しました。全身倦怠感が強くたそうです。1時間ぐらい経つと体調不良になつたそうですが、マスクをしていなかつたのが悔やまれます。4日後に当科を受診されました。CTで右肺野にスリガラス影を認めました。全身倦怠感が強く、冷汗、低酸素血症もあり、ステロイドの大量投与を行い入院となりました。1ヶ月弱の入院で軽快退院されました。今回再び、ツバメ肺炎を確めた結果になりました。

今後ともAさんは、ツバメの季節にはマスクが必要になるでしょう。

呼吸器学会発行の診療指針によりますと、鳥関連の過敏性肺炎は、ハトやインコが多く、羽毛や糞に含まれている有機物が原因のようです。ツバメの報告はないですが、Aさんにはツバメが原因と言つていよいです。

(呼吸器科 部長 山根 審男)

ようこそ 家庭医療へ!

～いわきに生きる家庭医療への挑戦～



皆さん、「万が一、明日この世がなくなるとしたら、今晩何を食べますか?」などと「最後の晚餐」について質問されたり、ご自身で「自分だったら何を食べるだろうか?」と想像を膨らませたことはありませんか?私の

場合「最後と分かっているならカロリーや値段などは一切気にせず、旨い酒と肴を求め酒場放浪するだろう」となど、欲深な妄想をしてしまいます。

最後の晚餐とはセッティングは少し違いますが、実際に人生の最終段階にさしかかった方々を対象とした調査研究があります。イギリスの総合診療医による研究で、死期が近いがん患者さんを対象に「生活の中で何を大切にしているか」インタビューしたものです。研究前は「世界有数の絶景を観に行く」「三つ星グルメを堪能する」など「人生で一度やっておきたかったことを実現する」という類的回答が上位を占め

第173回 最後の晚餐よりも大切なこと

石井 敦 病院長



ること想定していたようですが、実際の研究結果を見てみると、対象者が最も大切にしていたのが、毎日の犬の散歩や、いつものアフタヌーン・ティーなど、ありふれたごく普通の日常でした。

確かに、私が関わさせていただいた患者さんを思い返すと、中には最期に長年の夢を叶えることに注力される方もおられましたが、多くは「最期だから特別」という感じではなく、それまでの人生をそのまま全うされる印象があります。仕事の鬼と言われた方は最期まで職場に顔を出し、お話好きの方は最期までおしゃべりで、気配りができる方は最期まで周りを気遣います。

人生の最終段階においても、個々の日常の中にある「その人らしさ」を続ける支援ができたら良いと思います。ちなみに私の日常、つまり私らしさとは「酒と肴を求め彷徨う」ということになるのでしょうか?

かしま病院では、2008年度から家庭医を志す研修医や地域医療実習を行なう医学生を受け入れています。このコラムを担当する医師の石井敦は日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医として、研修医・医学生の指導を行なっています。

リハビリ POST 第160回

住環境からみる転倒予防

予防の重要なポイントになります。今回は、自宅でできる転倒予防の工夫についてご紹介します。

まず、自宅で転倒することが多いのはどこだと思いますか? 実は、段差や浴室よりも、居間や茶の間での転倒が多いのです。転倒は、つまずく、滑る、踏み外すなどの足元のトラブルが原因で発生することが多いと言われています。自宅内で転倒の原因となる足元のトラブルを回避することが、転倒予防に繋がります。

転 倒予防と聞くと、皆さんは何を思い浮かべますか? 転倒予防とは運動などでバランス能力や筋力を鍛えることと思われますが、それだけではありません。自宅の環境を見直すことでも、転倒

では、どのように自宅の環境を整えればよいでしょうか? 最も簡単な方法は「整理整頓」です。床の上有るものを持ち上げる、電気コードを壁に沿わせるなど、動線上に気づかず踏んでしまうような物を減らすことで、多くの足元のトラブルは回避できます。また、カーペットのつまずき防止には、床の色と区別しやすいものに替えることで、カーペットを認識しやすくなり、注意が向きやすくなります。同様に、手すりや踏み台なども、壁や床の色と異なる色合いのものになると、視認性が向上し、つかみ損ねや踏み間違いを防ぐことができます。

このように、筋力を鍛える以外にも住宅の環境を見直すことが転倒予防に繋がります。ご自宅やご家族の家の環境を転倒予防という視点から、今一度確認してみてはいかがでしょうか。

理学療法士 木村諒佑



かしま荘通信

ウクレレ演奏会

6月4日(火)



6月4日(火)、ウクレレバンド・ローズマリー様をお迎えし、ウクレレ演奏会が開催されました。

「ふるさと」では涙ぐまれ、「いい湯だな」では一緒に踊って盛り上がり、利用者の皆様に楽しんでいただけたようでした。

「第15回 日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会(6月7日~9日 in 浜松)」に参加しました!



2024年6月8日(土)に総合診療科の渡邊聰子先生が「地方病院における総合診療と地域基盤型医学教育の実践ーいちプロジェクトの活動報告」について発表しました。

当院で取り組んでいる地域医療に貢献する医療人の育成について説明しました。発表会場では活発な質問や意見交換もあり、熱気のある学会でした。